



脱炭素社会への挑戦

阪神高速グループでは、カーボンニュートラル・脱炭素社会の実現に向けた環境施策の方向性を、以下の3つの視点で捉え、総合的・包括的な取り組みを推進します。

3つの視点

- 1** より快適な高速道路サービスの提供
(地域の自動車交通の円滑化)
- 2** 社会インフラ企業としての自主努力
(事業活動における脱炭素化)
- 3** 地域や社会との共創
(地域や関係事業者との協働)

1 3つの視点に基づく取り組み より快適な高速道路サービスの提供(地域の自動車交通の円滑化)

円滑な自動車交通の確保

阪神高速道路ネットワークの拡充・強化により、都市部へ集中する交通負荷の軽減を図るとともに、ボトルネック渋滞の発生箇所における車線運用の改良や速度回復誘導灯の運用最適化など、さまざまな渋滞対策により円滑な自動車交通を確保することで、走行車両からのCO₂排出量の削減に取り組んでいます。



大阪市西区西本町付近交通状況

ネットワーク整備の推進 [▶▶ P.30](#)

渋滞対策 [▶▶ P.36](#)

高速道路ネットワーク整備はCO₂抑制に貢献しています。

自動車は時速60kmから80kmで走行すると燃費が良く、CO₂排出量も少なくなります。一般道よりも効率よく走行できる環境を整える阪神高速道路のネットワーク整備そのものが地域全体のCO₂抑制に貢献しています。

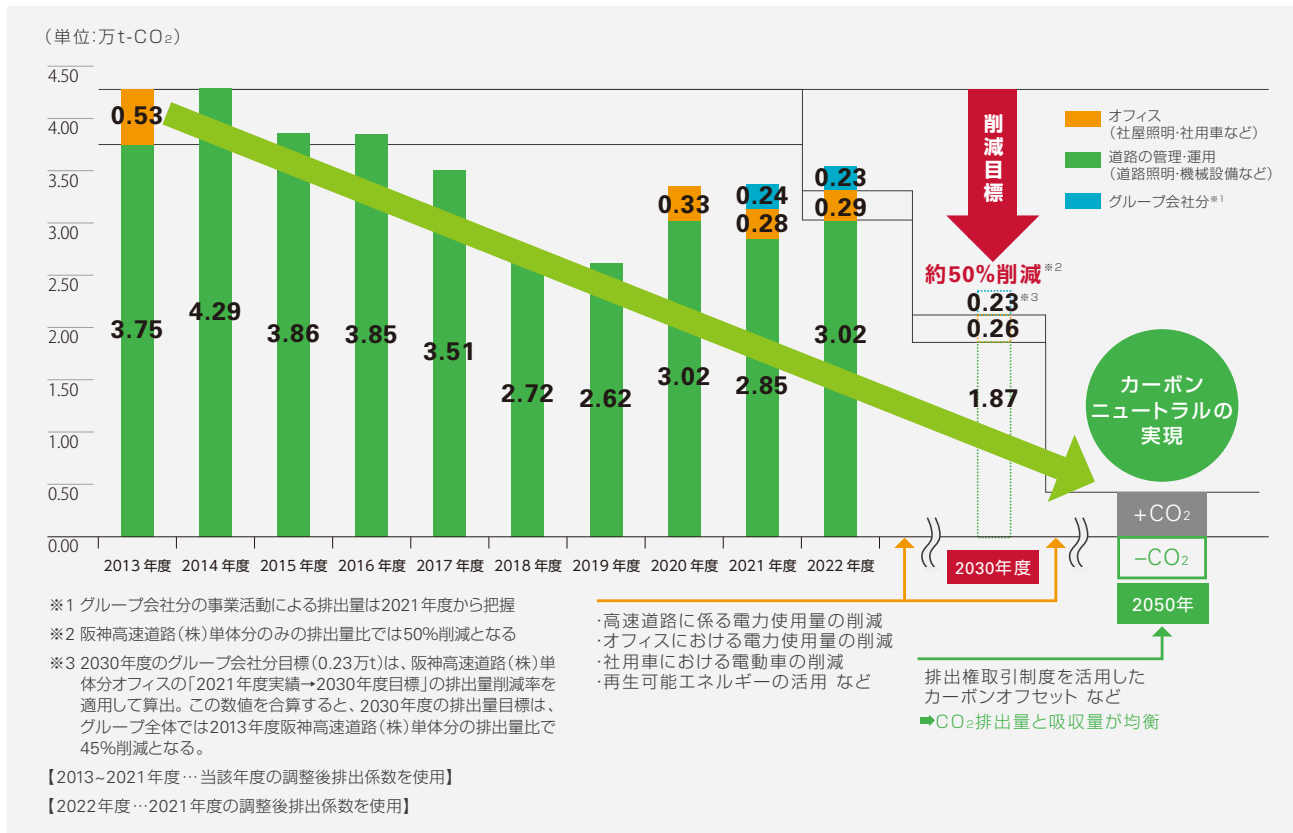


2 3つの視点に基づく取り組み 社会インフラ企業としての自主努力(事業活動における脱炭素化)

カーボンニュートラル・脱炭素社会に向けた目指すべきゴール

阪神高速グループでは、2050年カーボンニュートラルの実現をゴールに定め、2030年度までに50%削減(2013年度比)することを中間目標とし、事業活動における脱炭素化に取り組んでいきます。

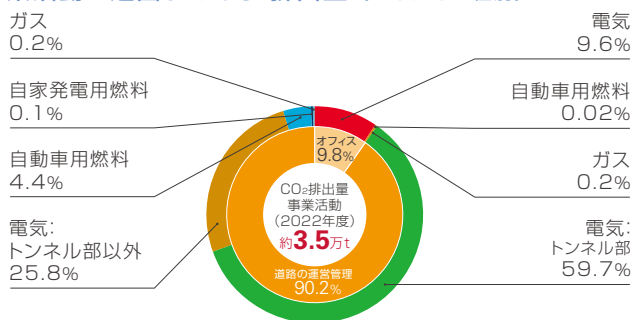
CO₂排出量および2050年に向けた目標



2022年度実績

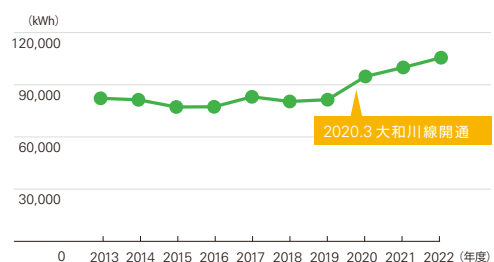
事業活動に伴うCO₂排出量のうち、電力使用によるものが約95.1%とその大半を占めています。なお、電力使用量の多いトンネル部の開通により、2020年度以降電力使用量は増加傾向にあります。また、2022年度は、コロナ禍で減少していた交通量の回復などにより、電力使用量が増加しました。

事業活動に起因するCO₂排出量(エネルギー種別)



【2021年度の調整後排出係数を使用】

電力使用量の推移



事業活動における脱炭素化に向けた取り組み

電力使用量の削減

CO₂排出量の主な要因である電力使用量の削減に向け、道路照明のLED化を進めており、2022年度までに約63%をLED化しました。また、オフィスにおいても、不要照明の消灯やオフィスでの適正な温度設定による空調設備の運転などにより、電力使用量の削減に取り組んでいます。



LED道路照明

再生可能エネルギーの活用

トンネルやパーキングエリア、料金所など4箇所に太陽光発電設備を設置し、発電した電力はトンネルやパーキングエリアなどで使用する電力の一部に利用しています。



太陽光発電(7号北神戸線長坂山トンネル坑口付近)

社用車における電動車の導入

代替不可能な場合を除き、社用車の新規導入・更新は、すべて電動車(ハイブリッド車や燃料電池車含む)への転換を推進しています。



電気自動車

3 3つの視点に基づく取り組み 地域や社会との共創(地域や関係事業者との協働)

次世代自動車の普及促進

電気自動車用急速充電器の設置

環境面に優れた電気自動車が安心して阪神高速道路を走行できるよう、すべての有人パーキングエリア(6箇所)に急速充電器を設置しています。今後、お客さまのニーズなども踏まえ、より高出力な充電器への更新などを進めていきます。

